

竪穴住居跡



竪穴住居の生活

国指定史跡 鳥取県米子市

福市遺跡



どこうぼ
土坑墓



福市丘陵遠景



調査風景



福市遺跡公園遠景

米子市教育委員会

米子平野を見渡す丘陵の集落 福市遺跡

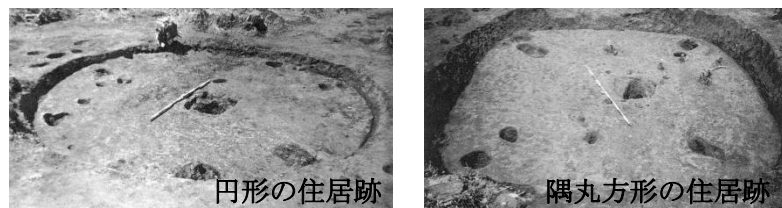
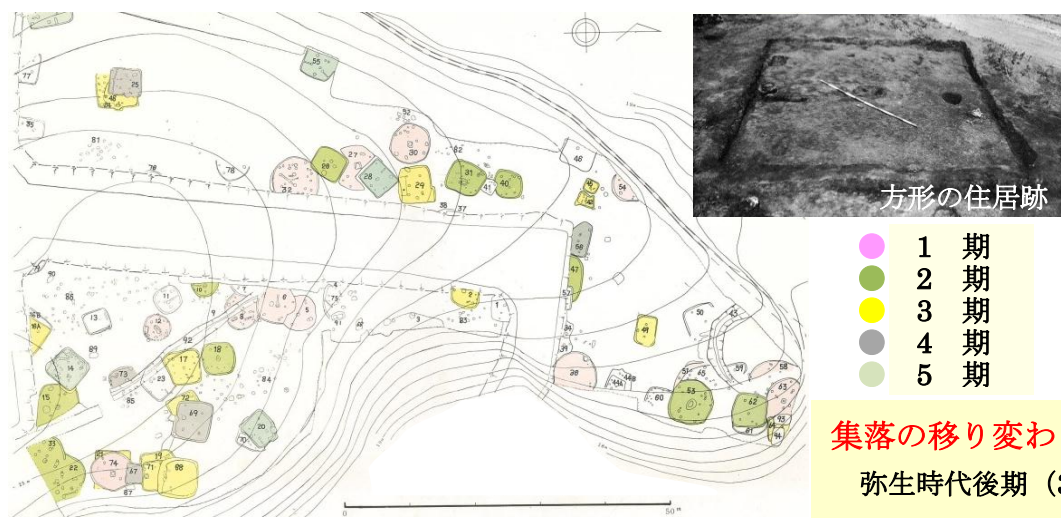
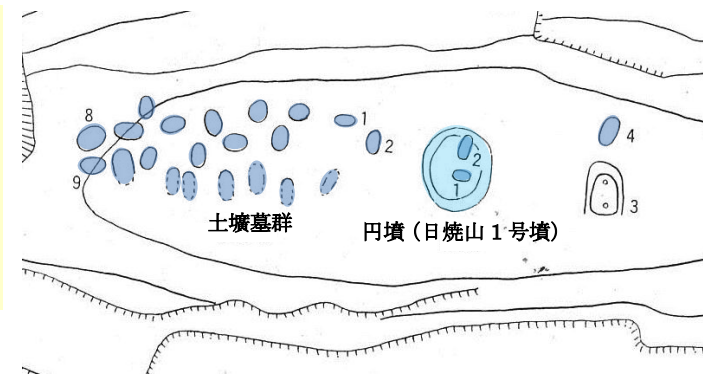
福市遺跡は、法勝寺川と日野川に挟まれた福市丘陵一帯に広がる弥生時代から古墳時代を中心に営まれた集落遺跡です。その範囲は、東西 500m、南北 400mに及び、山市場、御所原、南御所原、四ツ塚谷、日焼山、吉塚、青木向の7地区にわたって広がっています。このうち大規模な発掘調査が行われた吉塚地区では、多数の竪穴住居跡が発見され、何世代にもわたって人々が住み続けていたことが分かりました。また、隣接する日焼山地区では、吉塚地区の集落に住んでいた人々が埋葬されたと考えられる墓域が確認されています。

昭和 41 年 (1966) 以降実施された発掘調査によって、集落の全容が明らかになった貴重な遺跡として全国的な注目を集め、昭和 49 年 (1974) に吉塚地区と日焼山地区を合わせた 39,414 m²が国史跡に指定されました。その後、史跡公園として整備が進められ、現在は市民の憩いの場として多くの人々に親しまれています。

丘陵に造営された集落の墓域

日焼山地区では、吉塚地区で生活していた人々が葬られたと考えられる古墳時代前期の墓群が発見されています。墓は土壙墓と呼ばれる深さ 2m ほどの素掘りの穴で、これまでに 24 基が確認されていますが、未調査部を含めると倍以上の数が存在すると考えられます。

日焼山地区の中央には径 12m 高さ 1.2m の円墳 (日焼山 1 号墳) が存在しており、庶民が埋葬された土壙墓に対して、この円墳には吉塚地区の集落を率いた人物が葬られたようです。



集落の移り変わり 吉塚地区では、標高 25m ほどの平坦な丘陵で、80 棟の住居跡が発見されました。弥生時代後期 (3 世紀) から古墳時代前期 (4 世紀) を中心に、古墳時代後期 (6 世紀) までの約 400 年の間に営まれた集落で、数世代にわたって狭い範囲に重複して住居が造られました。住居の形は、円形から隅丸方形へ、そして方形へと時代によって変遷しており、造営された時期がおおまかに 5 期に区分されます。●1 期は弥生時代後期後半で 13 棟、●2 期は古墳時代前期前半で 12 棟、●3 期は古墳時代前期後半で 13 棟、●4 期は古墳時代中期で 4 棟、●5 期は古墳時代後期で 5 棟が確認されています。一時期に、10 数棟で構成されており、このような集落が当時の集落の一般的な規模であったと考えられています。

鶏 犬 (鹿?)

集落跡からは、鶏や犬 (鹿?) をかたどった小型の土製品が発見されています。これらは集落の祭りに使用されたものと考えられます。

山陰型 甑形土器

山陰地方独自の形をした高さ 50cm の土器で住居跡から発見されました。その使用方法についてははっきりとは分かっていませんが、蒸し器として使用された可能性が指摘されています。



土製支脚

高さが 15cm 程度の土器で、円柱の胴部に 2 本の支えが取り付けられています。これらは 2~3 個を組み合わせて、上図のように煮沸用の土器の支え (現在の五徳) として使用されていたようです。

福市遺跡公園MAP



◀ 米子市埋蔵文化財センター

展示室にて市内出土の考古遺物を展示しています。

- 入館料 無料
- 開館時間 9:00~17:00
※ただし入館は16:30まで
- 休館日 土日 祝日 12/29~1/3
〒683-0011 米子市福市281
TEL・FAX 0859-26-0455



▲ 米子市福市考古資料館

福市・青木遺跡の出土遺物を中心に米子市内で発見された考古資料を展示しています。

- 入館料 無料
- 開館時間 9:30~17:00
※ただし入館は16:30まで
- 休館日 毎週火曜日(祝日の場合翌日)
年末年始(12/29~1/3)
〒683-0011
米子市福市461-20
TEL・FAX 0859-26-3784



- 交通アクセス
- 【JR】「米子駅」から路線バス、溝口・日野方面(八郷線、二部線、根雨線、賀野・岩屋谷線(御内谷行きを除く))行きに乗車。「安養寺入口」下車 徒歩すぐ
 - 【車】「米子駅」から【約15分】
「山陰道米子南I.C」から【約5分】